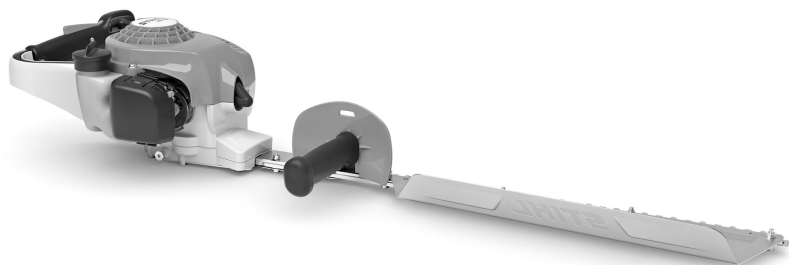


STIHL HS 52

STIHL



2 - 16 取扱説明書



目次

| | | |
|----|----------------------|----|
| 1 | はじめに..... | 2 |
| 2 | 使用上の注意および作業方法..... | 2 |
| 3 | 本機の使い方..... | 7 |
| 4 | 燃料..... | 8 |
| 5 | 給油..... | 9 |
| 6 | エンジンの始動と停止..... | 9 |
| 7 | 作業中の注意事項..... | 10 |
| 8 | エアフィルターの掃除..... | 11 |
| 9 | キャブレターの調整..... | 11 |
| 10 | スパークプラグ..... | 11 |
| 11 | エンジンの動作..... | 12 |
| 12 | ギヤーボックスの注油..... | 12 |
| 13 | 機械の保管..... | 13 |
| 14 | 目立ての注意事項..... | 13 |
| 15 | スチール販売店による点検と保守..... | 13 |
| 16 | 整備表..... | 14 |
| 17 | 磨耗の低減と損傷の回避..... | 14 |
| 18 | 主要構成部品..... | 15 |
| 19 | 技術仕様..... | 15 |
| 20 | 整備と修理..... | 16 |
| 21 | 廃棄..... | 16 |

お客様各位

この度は STIHL 社の製品をお買上げいただきまして誠に有難うございます。

この製品は、最新の製造技術と入念な品質保証処置を施して製造されました。私共は、お客様がこの製品を支障なく使用され、その性能に満足していただくために最善の努力を尽くす所存でございます。

本製品に関してご不明な点がありましたら、お買上げの販売店または当社カスタマーサービスにお問い合わせください。

敬具



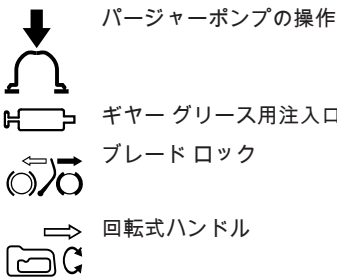
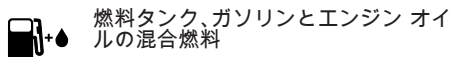
Dr. Nikolas Stihl

1 はじめに

1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。



本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



カッティングブレードが非常に鋭利で、高速で作動するため、本パワーツールを操作するときは特別な安全上の注意事項を遵守してください。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書を遵守しないと、重傷または致命傷さえも負うことがあります。

現地で適用される安全規制(業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定)にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合: STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者によるパワーツールの操作は許可されていません - ただし、監督者の指示の下で 16 歳以上の未成年者が作業を行う場合は例外です。

子供、動物、見物人を機械に近付けないでください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないよう配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー着用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー着用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

本機は、生垣、灌木、低木、茂みなどの剪定専用です。

上記以外の使用は禁止されており、事故や本機の損傷を招くおそれがあります。パワーツールにはいかなる改造も加えないでください。事故が生じたり、本機が損傷したりするおそれがあります。

STIHL 社が本パワーツールに使用することを明確に承認したか、仕様が同等のカuttingブレードとアクセサリーだけを使用してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリーのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリーの使用をお勧めしています。そうした純正品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。

木々、茂み、機械の可動部品に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。

靴底が滑らず、頑強な作りの靴を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard (欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

「個人」用のイヤープロテクター (例えばイヤーマフ) を着用してください。



耐性素材 (革など) でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬

必ずエンジンを切ってください。

たとえ短距離であっても、機械を持ち運ぶときは常にブレードガード (鞘) を装着してください。

パワーツールはハンドルを持って運搬してください - Cuttingブレードを後ろ側に向けてください。機械の高温になっている部分、特にマフラーやギアハウジングには触れないでください - **火傷をするおそれがあります!**

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い燃料です。火気を避けてください。燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - **燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。

パワーツールに標準装備されている燃料タンクキャップには、いくつかの種類があります。



給油後は、スクリュー式燃料キャップをできるだけしっかりと閉めてください。



ヒンジグリップ式燃料タンクキャップ(差し込みロック)は定位置に差し込み、止まるまで回してからヒンジグリップを下げてください。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - **重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！**

2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します - 本取扱説明書の関連する章を参照してください：

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ(手動燃料ポンプ付きの機械のみ)等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。火災が起きる危険があります！サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- ブレードロック(装着されている場合)を掛けます。
- スライドコントロール/停止スイッチは、容易にSTOPまたは0位置に移動できなければなりません。
- スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーがスムーズに作動するか点検します - スロットルトリガーは自動的にアイドル位置に戻らなければなりません
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、火災が発生するおそれがあります！

- カuttingブレードが適切に固定され、安全な作動状態(汚れが付着せず、目立てされ、反っていない状態)に保たれ、適正に装着され、STIHL 樹脂溶剤(潤滑剤)が十分に吹き付けられているか確認します。
- カッターガード(装着されている場合)が損傷していないか確認します。
- 絶対に操作部や安全装置を改造しないでください。
- ハンドルは乾いた清潔な状態(オイルや汚れが付着していない状態)に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。

負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください！

2.5 エンジンの始動

給油場所から3m以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限りです。

パワーツールを屋外の安定した地面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。パワーツールをしっかりと保持します。エンジンが始動すると動き出すおそがあるため、Cuttingブレードを地面や他のあらゆる障害物に接触させないください。

本パワーツールは、一人で作るように設計されています。作業エリアには、始動時であっても第三者を入れないください。

Cuttingアタッチメントに触れないください - **ケガをする危険があります！**

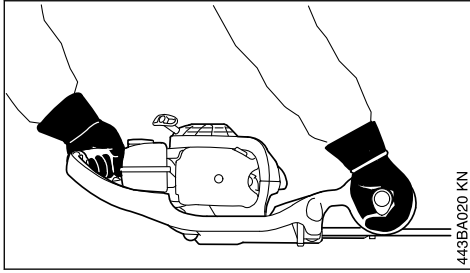
エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

スロットルトリガーを放しても、Cuttingブレードはしばらく作動し続ける点に注意してください - フライホイール効果です！

エンジンのアイドルリングを点検します：エンジンのアイドルリング中 - スロットルトリガーを放した状態では、Cuttingブレードは静止していなければなりません。

2.6 機械の保持と操作

必ず両手でパワーツールのハンドルをしっかりと保持します。



左手でコントロールハンドルを、右手でカッターバーハンドルを持ちます。ハンドルをすべての指でしっかりと握ります。

常に足場が安定しているか確認し、必ずカッティングブレードが身体から離れるように本機を保持します。

2.7 作業時

差し迫った危険や緊急の場合、スライドコントロール/停止スイッチを **0** または **STOP** に動かし、速やかにエンジンを停止します。

作業エリア内に見物人がいないことを確認します。

常にカッティングブレードに注意します - 生垣の見えない部分は切断しないでください。

背の高い生垣の切断時には特に注意し、生垣の反対側を確認してから作業を開始してください。

アイドリングが正常か点検し、スロットルトリガーを放したときにカッティングブレードが停止するか確認します。アイドリング中もカッティングブレードが作動する場合は、サービス店に修理を依頼してください。定期的にアイドリング回転数の設定を点検し、修正してください。

スロットルトリガーを放しても、カッティングブレードはしばらく作動し続ける点に注意してください - **フライホイール効果です!**

作業中はギアボックスが高温になります。**火傷を負う危険を低減するために、ギアボックスハウジングに触れないでください!**

滑りやすい場所では、特に注意してください。例えば濡れた面、雪や氷で覆われた面、斜面、凸凹のある地面!

落下した枝、低木、切りくずを取り除きます。

障害物に注意します: 樹木の切り株や根。 **つまづく危険があります!**

バランスと安定した足場を確保してください。

2.7.1 高所で作業する場合:

- 常にリフトバケットから作業します。

- はしごや枝に乗っている間は、絶対に本機を使用しないでください
- 足場が不安定な場所では絶対に作業しないでください
- 本機は絶対に片手で使用しないでください

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声(叫び声、警笛等)が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります!**

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なとき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないように配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があります、未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

吐き気、頭痛、視覚障害(視野狭窄等)、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。 **事故が生じるおそれがあります!**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では**喫煙は避けてください**。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった(強い衝撃が加わるか、落下した)場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください(「作業開始前」も参照)。特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。

生垣や作業エリアにカッティングブレードを損傷するものがないか点検します：

- 石、岩、金属片等の固い障害物を取り除きます。
- 砂や砂利がカッティングブレードの間に挟まらないよう注意します - 特に、地面近くで作業をするときは注意が必要です。
- ワイヤーフエンスと隣接する生垣を切断するときは、カッティングブレードをワイヤーに接触させないでください。

電線に触れないでください - 電線は絶対に切断しないでください - **感電する危険があります！**



エンジン作動中は、カッティングブレードに触れないでください。カッティングブレードに物が挟まったときは、直ちにエンジンを切ってから障害物の除去を試みてください - **そうしないと、ケガをする危険があります！**

カッティングブレードが固着したままスロットルを開くと、負荷が増し、エンジン回転数が低下します。クラッチが滑り続けるため、重要部品(クラッチ、ハウジングのプラスチック部品等)が過熱して損傷します - その結果、エンジンのアイドリング中にカッティングブレードが作動して**ケガをする危険があります！**

生垣の埃や汚れが激しい場合は、時々、カッティングブレードに STIHL 樹脂溶剤を吹き付けながら切断作業を行ってください。それによりブレードの摩擦や、樹液や粉塵の蓄積による悪影響を大幅に軽減することができます。

作業中に発生する粉塵は、健康に害を及ぼすおそれがあります。多量の粉塵が発生する場所では、防塵マスクを着用してください。

機械から離れる前に、必ずエンジンを切ってください。

作業中はカッティングブレードを定期的かつ頻繁に点検し、切断動作に目立った変化が生じたときは直ちに点検します：

- エンジンを切ります。
- カッティングブレードが完全に停止するまで待ちます。
- 状態と締め付け具合を点検し、細かな亀裂の有無を確認します。
- ダイヤモンド研削チエンが鋭利な状態が確認します。

常にエンジンやマフラーから草木の切れ端、木片、葉、および余分な潤滑剤を取り除きます - **火災が発生するおそれがあります！**

2.8 作業後

必ず機械から粉塵や泥を取り除きます - その際は、グリース溶剤を使用しないでください。

カッティングブレードに STIHL 樹脂溶剤を吹き付けます。エンジンを短時間作動させると、溶剤が均等に行き渡ります。

2.9 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります(「白ろう病」)。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護(暖かい手袋)
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質(症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く)。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ(握む力が強いと血行が低下します)。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状(指のしびれ等)が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症状が現れたら(指が疼くなど)、医師にご相談ください。

2.10 整備と修理

定期的にも本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して、不明な方はスチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するために、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。- 例外：キャブレター及びアイドリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態でスターターを操作してエンジンを始動する場合は、スライドコントロール/スト

ツプスイッチを **STOP** または **0** の位置にしてください。火花が飛んで**火災を起す危険**があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパークプラグだけを使用してください(「技術仕様」の項を参照)。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

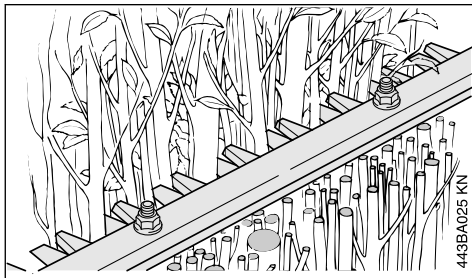
火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、**火傷**しないようにしてください。

振動の強さは、防振部品の状況に左右されます - 定期的に防振部品を点検してください。

3 本機の使い方

3.1 剪定



HS 52 は、太い幹や枝の生垣や低木の剪定用に設計されています。

3.2 切断時期

生垣の切断に関する国や市町村の規則と規制を遵守してください。

他の人が通常休んでいる時間帯は、パワーツールを使用しないでください。

3.3 切断の順序

最初に剪定ばさみまたはチェーンソーで太い枝を切り落とします。

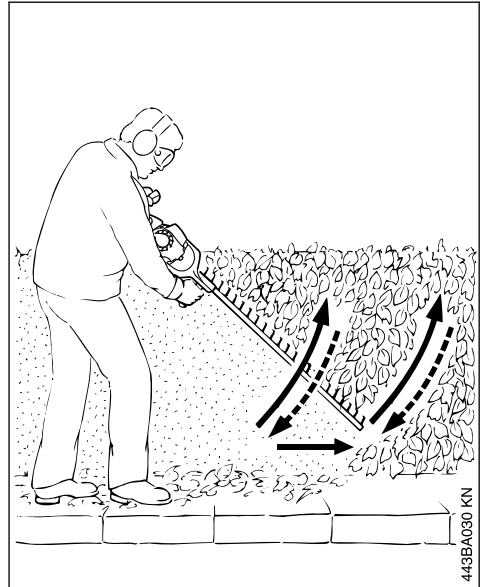
生垣の両端を切断してから上側を切断します。

3.4 廃棄

切断した葉や枝は、家庭用ゴミとして捨てないでください - 堆肥にできる可能性があります!

3.5 作業方法

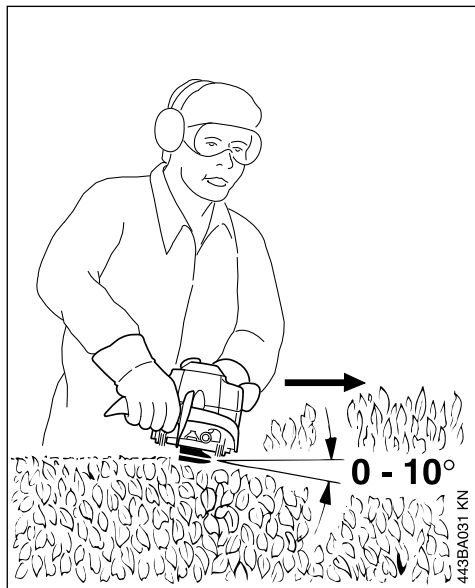
3.5.1 垂直切断



カッティングブレードを下から上へ円弧状に振り、ブレードの先端を下げて生垣に沿って移動し、再び上へ向けて円弧状に振ります。

頭の高さよりも上で作業を行うと、疲労が溜まります。事故が起きる危険を低減するために、そのような位置の作業は短時間に限定してください。

3.5.2 水平切断



ヘッジトリマーを水平に振りながら、カッターバーが 0～10°の角度になるよう保持します。

切断した枝が地面に落ちるよう、カッティングブレードを生垣の外側に向けて弓形に振ります。

カッティングブレードにオプションのキャッチャープレートを装着すると、生垣の切断が楽になります。

4 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



警告

健康に害が及ぶため、ガソリンに直接触れたり、気化したガソリンを吸い込んだりしないでください。

4.1 STIHL モトミックス (MotoMix)

STIHL 社は、STIHL モトミックス (MotoMix) の使用をお勧めしています。すぐに使用可能なこの混合燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価です。この燃料を使用すると、常に適正な混合比率を維持することができます。

STIHL モトミックス (MotoMix) には、エンジンをさらに長寿命化する STIHL HP ウルトラ 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

STIHL モトミックス (MotoMix) が販売されていない市場もあります。

4.2 燃料の混合

注記

規定以外の不適切な燃料/オイルを使用するか、規定以外の混合比率を用いると、エンジンに重度の損傷が生じることがあります。低品質のガソリンあるいはエンジンオイルは、エンジン、シーリングリング、ホース、燃料タンクを損傷させることがあります。

4.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の高品質ブランドのガソリンだけを使用してください - 無鉛、有鉛は問いません。

エタノール濃度が 10% 以上のガソリンは、手動調整が可能なキャブレター付きエンジンで作動関連の不具合を引き起こすことがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、エタノール濃度が 25% までのガソリン (E25) で最大出力を発揮できます。

4.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 製 2 ストロークエンジンオイルのみを使用するか、次の仕様を満たす他の高性能エンジンオイルを使用してください: JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC、または ISO-L-EGD。

機械の耐用年数にわたって排気ガスが規制の限度値を超えないよう、STIHL 社は STIHL HP ウルトラ 2 ストロークエンジンオイルの使用をお勧めしています。

4.2.3 混合比率

50:1 (STIHL 2 サイクルエンジンオイルの場合):
50 : 1 = ガソリン 50 に対してオイル 1

4.2.4 例

| ガソリン | STIHL エンジンオイル (比率 50 : 1) |
|------|------------------------------|
| リットル | リットル (ml) |
| 1 | 0.02 (20) |
| 5 | 0.10 (100) |
| 10 | 0.20 (200) |
| 15 | 0.30 (300) |
| 20 | 0.40 (400) |
| 25 | 0.50 (500) |

▶ 燃料の保管には承認された容器を使用してください。燃料容器にまずオイルを入れてからガソリンを入れ、十分に混ぜ合わせます。

4.3 燃料の保管

燃料は承認された安全タイプの燃料容器に入れ、照明や太陽光から保護された、涼しく安全で乾燥した場所に保管してください。

混合燃料は劣化します - 数週間で使い切る分だけを混合してください。混合燃料を 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、高低温にさらすと、混合燃料は短期間で使用できなくなる場合があります。

STIHL モトミックスは、問題なく最長 2 年間保管することができます。

- ▶ 給油する前に混合燃料の入った携行缶をよく振ってください。



警告

携行缶内で圧力が生じている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

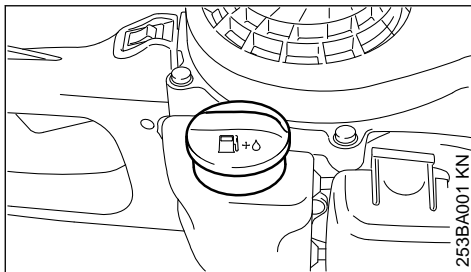
- ▶ 燃料タンクと携行缶は、時々十分に洗浄してください。

残ったガソリンと洗浄に使用した液体は、その地域の規定と環境要件に従って適切に処理してください。

5 給油



5.1 準備



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、フィルターキャップとその周りをきれいにしてください。
- ▶ フィラーキャップが上を向くようにマシンを置いてください。
- ▶ フィラーキャップを開きます。

5.2 燃料を補充します。

給油の際には燃料をこぼさないようにし、また燃料をタンクからあふれさせないでください。

当社では給油用にスチール フィラー ノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めします。

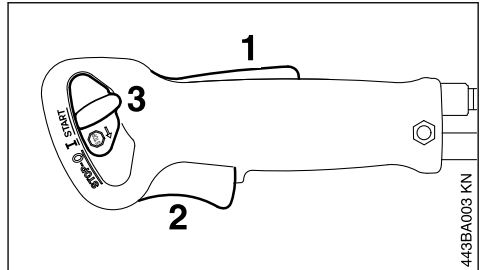


警告

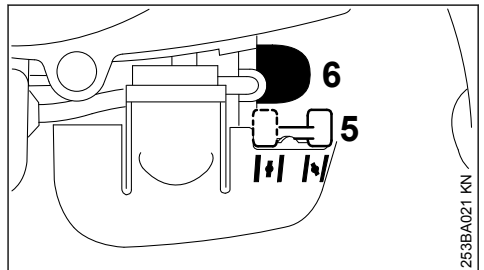
給油の後は、フィルターキャップをできる限りしっかりと手で閉めてください。

6 エンジンの始動と停止

- ▶ 安全注意事項を守ってください。「使用上の注意および作業方法」を参照してください。

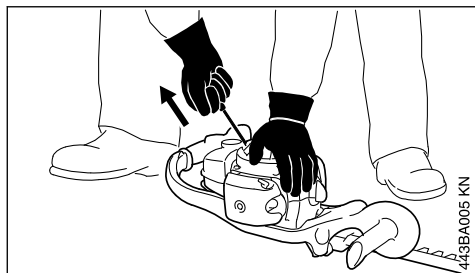


- ▶ ロックアウトレバー (1) を押し下げ、スロットルトリガー (2) をしっかりと握ります - その位置で両方のレバーを保持します。
- ▶ スライドコントロール (3) を **START** へ動かし、その位置で保持します。
- ▶ ロックアウトレバー、スロットルトリガー、スライドコントロールを放します。これが始動スロットルの位置です。



- ▶ チョークレバー (5) を次のようにセットします。
- ▶ エンジンが冷えている場合
暖機スタートの場合 - エンジン始動後、完全に暖機されていない場合もこの位置を使用します。
- ▶ 手動燃料ポンプ (6) を最低 5 回押ししてください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

6.1 始動操作



- ▶ 本機を地面に置きます。
- ▶ ブレード鞘を取り外します。カッティングブレードが地面やその他の障害物と接触していないか確認します。
- ▶ 足場が安全で、安定しているか確認します。
- ▶ 左手をファンハウジングに当てて機械を確実におさえ、地面に押し付けます。
- ▶ 右手でスターターグリップをゆっくり引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良くグリップを引っ張ります。

注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください - 切れるおそれがあります。

- ▶ スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。

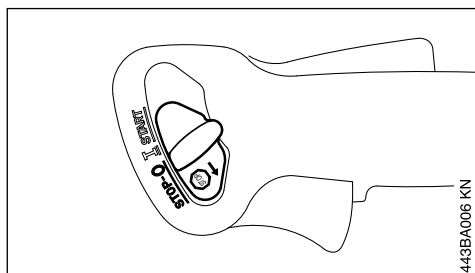
6.2 エンジンが初爆したら

- ▶ チョークレバーを e にセットし、始動操作を続けます。

6.3 エンジンがかかったらすぐに

- ▶ スロットルを開きます - スライドコントロールが通常の運転位置 F まで動き、エンジンがアイドリング回転に戻ります。

6.4 エンジンの停止



- ▶ スライドコントロールを 0 または STOP の位置に合わせます。

6.5 始動に関するその他の注意事項

6.5.1 外気温が非常に低い場合 - エンジンを暖機します

エンジンがかかったらすぐに：

- ▶ エンジンを始動スロットル位置で約 10 秒間、運転します。
- ▶ スロットルを開きます - スライドコントロールが通常の運転位置 F まで動き、エンジンがアイドリング回転に戻ります。

6.5.2 エンジンが始動しない場合

エンジンの初爆後、すぐにチョークレバーを e の位置に動かさないと、燃焼室に過剰量の燃料が吸い込まれます。

- ▶ チョークレバーを e にセットします - エンジンが冷えている場合も同様です。
- ▶ スターターロープを数回、素早く引き、エンジンを始動します。

6.5.3 燃料タンクが完全に空になるまで運転してから再給油した場合

- ▶ 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。
- ▶ エンジンを再始動します。

7 作業中の注意事項

7.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンクの間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これですらし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

7.2 作業中

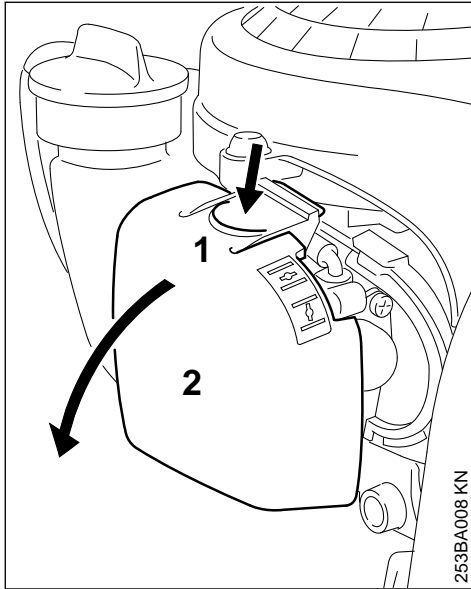
長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

7.3 作業後

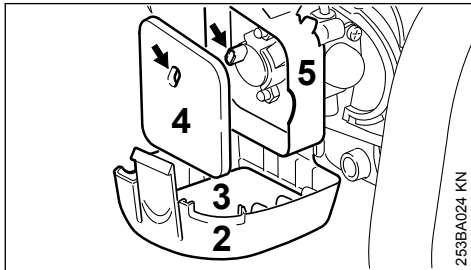
短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

8 エアフィルターの掃除

8.1 エンジンの出力が著しく低下した場合



- ▶ チョークレバーを「ト」に動かします。
- ▶ タブ(1)を押し込み、フィルターカバー(2)を下に回します。
- ▶ フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます。



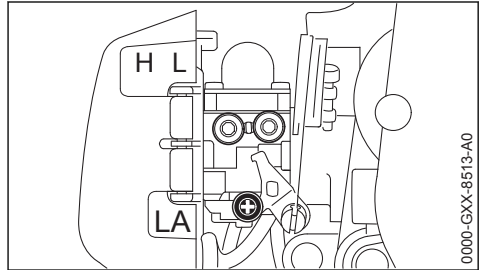
- ▶ フォームフィルター(3)とフェルトフィルター(4)を外します。
- ▶ フォームフィルターをきれいな不燃性の溶液(例:石けん水)で洗浄し、乾かします。
- ▶ 新しいフェルトフィルターを取付けます。補助的な方法として、手の平で叩くか、エアで汚れを吹き飛ばします。洗わないでください。
- ▶ 損傷した部品は交換してください。

- ▶ フォームフィルター(3)をフィルターカバー(2)に、フェルトフィルター(4)をフィルターハウジング(5)に取り付けます。
- ▶ フィルターカバーを閉じ、正しい位置にかみ合うようにします。

9 キャブレターの調整

キャブレターは、大抵の運転条件下で混合気が最適化されるよう工場出荷時に設定されています。

9.1 アイドリング回転数の調整



- ▶ エンジンをかけて暖機します。

9.1.1 アイドリング回転中にエンジンがストールする

- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー(LA)をエンジンが円滑に作動するまで時計回りにゆっくりと回します - カuttingブレードが動いてはいけません。

9.1.2 アイドリング回転中にCuttingブレードも一緒に回転する場合

- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー(LA)をCuttingブレードが停止するまで反時計方向に回した後、同方向にさらに1/2 ~ 1回転させます。



警告

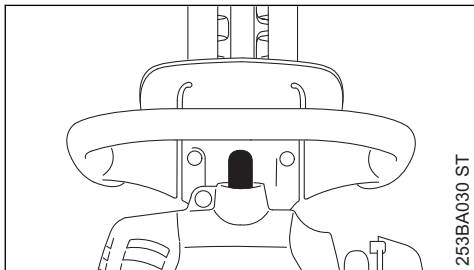
エンジンのアイドル回転時にCuttingブレードが動き続ける場合、サービス店にパワーツールの点検と修理を依頼してください。

10 スパークプラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドルが不安定になったら、先ずスパークプラグを点検してください。
- ▶ 約100時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

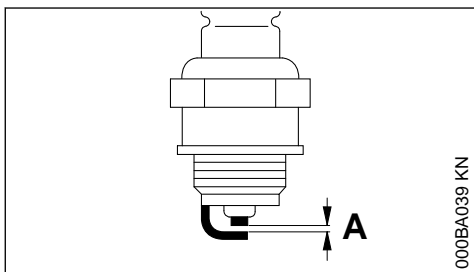
10.1 スパークプラグの取り外し

- ▶ 停止スイッチを O に移動します。



- ▶ スパークプラグ ターミナルを抜き取ります。
- ▶ スパークプラグを緩めます。

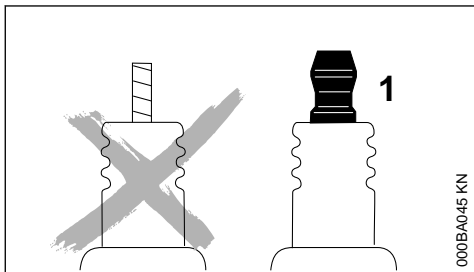
10.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

10.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグを手で取り付け、締め付けます
- ▶ コンビネーションレンチでスパークプラグを締め付けます
- ▶ スパークプラグ ターミナルをしっかりとスパークプラグに押し込みます

11 エンジンの動作

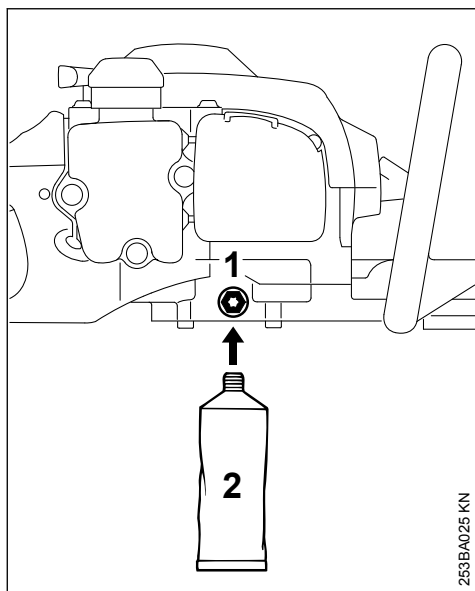
エアフィルターを掃除してキャブレターを適切に調整しても、エンジンの動作が不十分な場合は、マフラーが原因の可能性があります。

マフラーが汚れていないか (カーボンで詰まる)、スチール サービス店で点検してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

12 ギヤボックスの注油

ブレードドライブギアにヘッジトリマー用スチールギアグリース (特殊アクセサリ) を塗布します。



約 50 運転時間ごとに以下の作業を実施します：

- ▶ スクリュー プラグ (1) をギアボックスから取り外します。
- ▶ グリース チューブ (2) を注入口に差し込みます。
- ▶ 最大で 5g のグリースをギアボックスに注入します。

注記

ギアボックスいっぱいにグリースを入れしないでください。

- ▶ グリース チューブ (2) を取り外します。
- ▶ スクリュー プラグを取り付け、しっかりと締め付けます。

13 機械の保管

3 カ月以上の場合

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制条件通りに処理してください。
- ▶ エンジンを運転してキャブレター内の燃料を空にしてください - キャブレターのダイヤフラムの固着を防ぐうえで、有効です。
- ▶ カutting ブレードを掃除して、状態を点検して、スチール樹脂溶剤を吹きつけます。
- ▶ ブレード鞘を取り付けます。
- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダーフィンとエア フィルターに注意します。

- ▶ 機械を乾いた安全な場所に保管してください (後ハンドルに一体化されているリングを使用します)。子供の手の届かないところに保管し、許可外の使用を避けてください。

14 目立ての注意事項

切れ味や切れ具合が悪くなって、ブレードが頻繁に枝に挟まる場合: Cutting ブレードを再目立てします。

Cutting ブレードは、整備工場の目立て機を使用してサービス店で目立てされることをお勧めします。スチールではスチール サービス店をお勧めします。

クロスカット平ヤスリもご使用いただけます。目立てやすりを所定の角度で握ります (「技術仕様」を参照)。

- ▶ カッター先端のみを目立てします - Cutting ブレードの尖っていない突き出た部分や Cutting ブレードガード (「主要構成部品」を参照) にやすりをかけないでください
- ▶ 常に Cutting エッジに向かって目立てします。
- ▶ ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときは、ヤスリをブレードから離します。
- ▶ 砥石で Cutting エッジのバリを取り除きます。
- ▶ 削る量は、できるだけ少なくしてください。
- ▶ 目立て後、Cutting ブレードに残ったヤスリやグラインダーの切削粉を除いて、スチール樹脂溶剤を吹き付けてください。

注記

切れ味が悪い Cutting ブレードや傷んでいる Cutting ブレードが装着されている機械で、作業しないでください。機械の過負荷の原因となり、切断状態も十分でなくなることがあります。

15 スチール販売店による点検と保守

15.1 整備作業

STIHL 社では、認定を受けた STIHL サービス店の方に整備や修理を依頼されることをお勧めしています。

15.2 タンク内のピックアップボディ

- ▶ 燃料タンクのピックアップボディを毎年交換してください。

16 整備表

| 以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。 | | 高 負 荷 作 業 | 日 毎 は た た い 作 業 結 了 後 | 毎 週 毎 月 | 毎 月 | 12 ヵ 月 毎 | 故 障 時 | 損 傷 時 | 合 計 必 要 な 場 合 |
|---|---------------------------------|-----------------------|---|------------------|--------|-------------------|-------------|-------------|---------------------------------|
| 機械本体 | 目視検査 (状態と漏れ) | X | | X | | | | | |
| | 清掃 | | X | | | | | | |
| コントロールハンドル | 作動点検 | X | | X | | | | | |
| エアフィルター | 清掃 | | | | | | X | | X |
| | 交換 | | | | | | | X | |
| 手動燃料ポンプ (装着されている場合) | 点検 | X | | | | | | | |
| | 修理はサービス店に依頼してください ¹⁾ | | | | | | | X | |
| 燃料タンク内のピックアップポディ (フィルター) | 点検はサービス店に依頼してください ¹⁾ | | | | | X | | | |
| | 交換はサービス店に依頼してください ¹⁾ | | | | | X | | X | X |
| 燃料タンク | 清掃 | | | | | X | | X | |
| キャブレター | アイドリング調整の点検 | X | | X | | | | | |
| | アイドリング調整 | | | | | | | | X |
| スパークプラグ | 電極ギャップの調整 | | | | | X | | | |
| | 100 運転時間毎に交換 | | | | | | | | |
| 冷却風吸入部 | 目視検査 | | X | | | | | | |
| | 清掃 | | | | | | | | X |
| すべてのスクリューとナット (調整スクリューを除く) | 締め直し | | | | | | | | X |
| 防振装置 | 目視検査 | X | | | | | | | |
| | 交換はサービス店に依頼してください ¹⁾ | | | | | | X | X | |
| カッティングブレード | 清掃 | | X | | | | | | |
| | 目立て | | | | | | | | X |
| | 目視検査 | X | | | | | | | |
| | 交換はサービス店に依頼してください ¹⁾ | | | | | | | X | |
| ギアボックスの潤滑 | 約 50 運転時間ごとに点検および補充します | | | | | | | | |
| 安全ラベル | 交換 | | | | | | X | | |

1)STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています。

17 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わず

に使用したこと起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

17.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

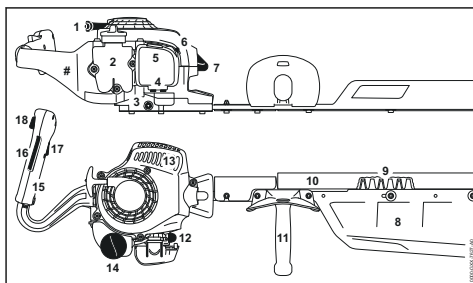
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エアフィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンダーフィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

17.2 磨耗部品

刈払機の部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- カutting ブレード
- クラッチ
- フィルター(エアフィルター、燃料フィルター)
- リwind スターター
- スパークプラグ
- 防振システムのコンポーネント

18 主要構成部品



- 1 スターターグリップ
- 2 燃料タンク
- 3 スクリュープラグ
- 4 キャブレター調整スクリュー
- 5 フィルターカバー
- 6 チョークレバー
- 7 スパークプラグターミナル
- 8 キャッチャープレート
- 9 カutting ブレード
- 10 ブレード鞘
- 11 前ハンドル
- 12 手動燃料ポンプ
- 13 マフラー
- 14 燃料タンクキャップ
- 15 コントロールハンドル
- 16 スロットルトリガーロックアウト
- 17 スロットルトリガー
- 18 スライドコントロール

19 技術仕様

19.1 エンジン

STIHL 単気筒 2 ストロークエンジン

| | |
|-----------------------|---------------------|
| 排気量： | 27.2cm ³ |
| シリンダー径： | 34 mm |
| ピストンストローク： | 30 mm |
| ISO 7293 に準拠したエンジン出力： | 0.75 kW (1 HP)/8500 |
| 1/min | |
| アイドリング回転数： | 2800 rpm |
| リミッター作動回転数： | 10,300 rpm |

19.2 イグニッションシステム

エレクトロニックマグネットイグニッション
 スパークプラグ(雑音防 止)： NGK CMR6H

電極ギャップ： 0.5 mm

19.3 燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量： 225 cm³ (0.225 l)

19.4 重量

カッティングアタッチメント付き - 5.0 kg
式、燃料なし：

19.5 カッティングブレード

水平目立て角度： 35°

19.6 音圧・騒音・振動数値

振動に関する指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、www.stihl.com/vib をご覧ください。

19.6.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_p

100 dB(A)

19.6.2 ISO 22868 に準拠した音響出力レベル

L_w

109 dB(A)

19.6.3 ISO 22867 に準拠した振動加速度

$a_{hv,eq}$

左ハンドル： 13.5 m/
s²

右ハンドル： 13.3 m/
s²

19.7 排気ガス

EU 型式認定手順に従って測定した CO₂ 値は、www.stihl.com/co2 に記載されています。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。型式認定は、エンジンを改造すると無効になります。

20 整備と修理


本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニング

を受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

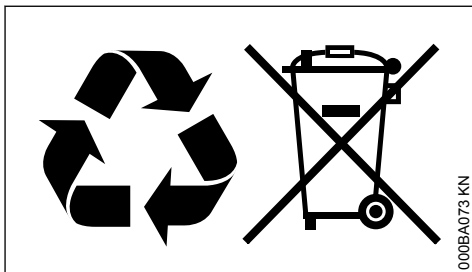
修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

21 廃棄

国別の廃棄の規則および規制を順守してください。



スチール製品は、家庭用ごみ入れに廃棄しないでください。製品、アクセサリ、包装は、環境に配慮してリサイクルを行うため、認可された廃棄場に持ち込んでください。

廃棄物処理の最新情報については、スチール サービス店へお問い合わせください。

www.stihl.com



0458-497-4321-C



0458-497-4321-C